日本勤労者山岳連盟・静岡県勤労者山岳連盟

長泉麗峰山の会 (sine１９９４)

第２９期・１１巻　　２０２４年　　２月号　　NO. 269

仲間と仲間を結ぶ機関誌

すーほう

Susono Reihou Alpine Club

雪の記憶

山行ＮＯ．２０２２
２０２３．１２．２９
会創立３０周年記念登山
焼岳・南峰

2024年度・02月度例会資料　　2024/02/03

１．報告・当面の予定

12/28（木）～30（土）会　30周年記念・冬山合宿　焼岳南峰　後藤、加藤、井上、山田敬、北村

01/06（土）個　富士山・二ッ塚　　後藤

/06（土）個　越前岳・杓子尾根　　加藤、星、植松＝3名

/07（日）個　富士山・二ッ塚　　北村

/13（土）会　初登山・発端丈山　　後藤、加藤、井上、伊藤、勝又、合谷、斎藤、山田敬、北村、松永＝10名

/14（日）会　県連・交流ハイク　大丸山　　加藤、星、山田由、植松、深沢＝5名

全体＝13団体・77名

/17（水）会　大平山（30周年下見）　　後藤、加藤

/19（金）～20（土）30周年記念山行　西天狗・西尾根　　後藤、加藤、勝又、山田敬、北村

/27（土）会　富士山・二ッ塚（雪見ハイキング）　後藤、加藤、井上、伊藤、斎藤

/28（日）個　達磨山レストハウス～金冠山～河内スギ往復　　北村、ほか１名

２．新しい仲間です。

植松好野さん、井戸川優子さんです。ふじ山楽歩山の会から、1/1入会しました。植松さんは、10月加藤さんと権現～赤岳～真教寺尾根をやりました。よろしくお願い致します。

３．会報とピックアップ

「あさぎり」　あさぎり山の会　　１月号　　NO.36３　　P39　　電子版

報告＝帆掛山～梶原山、忘年山行・白鳥山、北横岳（ロープウェイ）、塔ノ岳（書策新道）、西天狗岳・西尾根（周回）、計画書、２０２３・会報表紙集、ほか登山計画、掲示板

「甲斐峰」　山梨山の会　　１月号　　NO,320　　P14　　電子版

エッセイ「山との出会い・その後」、雀の学校・源次郎岳と箱根・石畳道と醍醐山、例会山行・信州峠～飯盛山、例会山行・淵ヶ沢山、年末雪山・稲子湯～本沢温泉～夏沢峠、望年山行・八王子山、村山古道、山行状況、山行予定、閲覧室・れいほう12月号、ほか

「ハイキングだより」　新潟・みちぐさハイキングクラブ　１月号　　NO.351　　P12　　電子版

年頭ごあいさつ、吾妻耶山、アルプス日記・２、山行表、忘年会、会務報告、など　　山行ブログ・・・ https://mitigusahc.fc2.net/

「あしたか」　沼津勤労者山岳会　　１月号　　NO.なし　　P12　　電子版

予定表、山行計画、報告＝びく石（びく石があった）、金峰山、梶原山（静岡市）、三筋山、醍醐山、金時山、美ヶ原、ほか

「あべっこ」　静岡安倍っ子山の会　　12・１月号　　NO.504　　P14　　紙製本

会員新春投稿・今年は体力増進、悔いのないように、末永くクライミングを楽しめる体に、ロングトレイル、ボチボチとハイキングを楽しみながら、夢や希望はたくさんあるが、山に行きたい　報告＝奥大光山、七面山～八紘嶺、開聞岳、竜爪山、高根山　東海自然歩道・日本平コース「登山者アンケート調査」67筆回収、自然保護デー、理事会報告など

切り抜き帳 静岡新聞から転載

南ア・小河内岳へ 日本初 特別地域に着陸

20分ひとっ飛び

県観光協 9月から訪日客向け「ヘリハイキング」

県観光協会は25日、ヘリコプターで南アルプス・小河内岳山頂（標高2802㍍）付近に降り立つヘリハイキングを盛り込んだ「南アルプス国立公園アドベンチャーツアー」を企画したと発表した。同協会によると、観光目的で国立公園法の特別地域にヘリで着陸する試みは日本初。小河内岳の登頂には通常複数日要するが、同ツアーでは約20分の空の旅を楽しみながら登頂することができる。インバウンド（訪日客）を主なターゲットに9月1日から10月31日までの間、要予約で実施する。

県観光協会らがヘリで視察に訪れた小河内岳の山頂付近。富士山と南アルプスが一望できる＝2023年11月

日本平ホテル（静岡市清水区）を出発しヘリで小河内岳を目指す。参加者は山頂付近で富士山や南アルプスの壮大な景色を眺めながら最大30分、徒歩で散策を楽しめる。下山後は、登山拠点である椹島ロッジ（同市葵区）やウイスキー醸造を行う井川蒸留所（同区）などを見学する。

ツアーは県観光協会と南アルプスを管理する十山（静岡市葵区）、地域振興交流協会（同区）が共同で企画した。2023年2月に同協会の上田和佳事業統括ディレクターが、元赤石岳避難小屋管理人の榎田善行さん(68)からヘリで登頂するアイデアを聞いたことがきっかけとなった。強風が吹く高山で人を安全に降ろせる場所の選定や、特別地域への着陸許可などさまざまなハードルをクリアし実現した。

上田さんはヘリハイキングの利点について「体力のない高齢者や子どもでも簡単にたどり着ける」と語る。「インバウンドだけでなく、県民向けのツアーも検討し南アルプスの魅力を多くの人に伝えたい」と意気込む。

（島田支局・白鳥壱暉）

ヘリ活用「山に優しい」

企画提案 川根本町の榎田さん

今回のツアー実現の一端を担った川根本町の榎田善行さん(68)は2021年秋頃、ヘリコプターで南アルプス・光岳（2592㍍）に登頂する企画を同町観光課に持ち込んだ。

同町から光岳へ向かう唯一の登山道だった寸又峡林道が、06年ごろから土砂崩れで通行止めとなり、現在光岳へ向かうには静岡市側から複数日かけて登るルートが主流となっている。榎田さんは「南アルプスが町民から遠くなってしまっている」と危機感を示す。

榎田さんの最初の企画は着陸許可の問題などで立ち消えとなったが、形を変えて実現した。元赤石岳避難小屋管理人でもある榎田さんはヘリを活用した登山について「登山道整備が必要ないため山にも優しい。今後町民が気軽に利用できるようになってほしい」と期待した。

1/26

緊急報告

1．国立公園・特別地域に観光ヘリを飛ばすのは、リニア反対に反するのでは？
2．県がこれを許可するとは？信じられない！
3．ヘリ活用は、本当に「山に優しい」か？
4．そもそも、山は「足で上る」のではないか？
5．２８０２ｍの高山のヘリ登山は、リフト登山とは違う
6．「南アルプスが町民（国民？）から遠くなってしまっている」の危機感は、おかしい
　むしろ、オーバー・ユースである

南アルプス 保全と継承へ

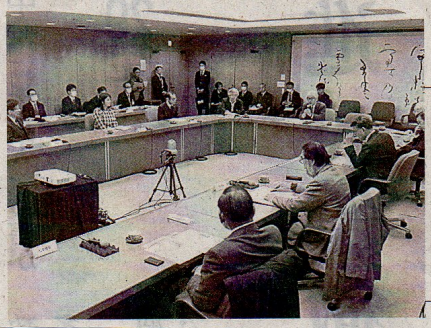
「未来デザイン」了承

「つなぐ会」

南アルプスの自然環境の保全や利活用に向けた官民組織「南アルプスを未来につなぐ会」（会長・山極寿一総合地球環境学研究所長）はこのほど、県庁で2023年度2回目の運営会議を開き、本県域の南アルプスの保全や活用、継承などに関する取り組みを提案する「南アルプスが輝く未来デザイン」の最終案をおおむね了承した。同会は23年度内に冊子を作製、公表し、教育や観光など幅広い分野で活用する。

最終案は、6月にユネスコエコパーク登録10周年を迎える南アルプスの成り立ちや自然がもたらす恩恵、地域に根付いた伝統文化などを紹介。環境の変化や認知度の低さ、アクセスの悪さといった課題、継承に向けた取り組みの方向性などを4章構成でまとめた。

子どもが理解できるよう、主人公の中学生と南アルプスを象徴する登場人物の対話による物語形式で展開するなど工夫も凝らした。あえて具体的な計画や数値目標などは記載せず、幅広い立場の人が魅力と課題を共有し、行動に結びつけることを念頭に置いた。



南アルプスが輝く未来デザインの最終案について協議した運営会議＝県庁

運営会議の理事に名を連ねる川勝平太知事は、静岡市街地からのアクセスだけでなく、大井川鉄道や大井川沿いの道路の利用を含め「どうしたら南アルプスに行けるかを記載した方がいいのでは」と提案した。同じく理事の難波喬司静岡市長は、ふるさと納税を活用して同市が管理する避難小屋などの改修を来年度実施したいとし、「南アルプスの良さをしっかり増やしていきたい」と述べた。

1/17

幕末から富士山の象徴 歴史たどる

世界遺産センターで特別展

明治期に作られた掛け軸「住吉富士吉野図」＝富士宮市の県富士山世界遺産センター

富士宮市の県富士山世界遺産センターで18日から、世界文化遺産登録10周年記念特別展「富士山 藝術の源泉」後期展が始まる。幕末から明治時代にかけて、富士山が将軍家の象徴から天皇の象徴に移った歴史をたどる。2月12日まで。

明治20年代に作られた4作品を新たに展示した。嘉仁親王（後の大正天皇）に献上された国内最大級の三幅対掛け軸「住吉富士吉野図」は、幕府御用絵師の狩野派から帝室技芸員に任命される狩野永悳立信（かのうえいとくたちのぶ）らが手がけた。霊峰の手前には雲海のみが描かれ、神聖で不可侵な象徴であることが表現されている。

同センターの松島仁教授（美術史）は大日本帝国憲法を引用し、神聖にして侵してはならない天皇を富士山と重ねたとみる。その上で「天皇が国だった時代で、日本の象徴は富士山という印象が生まれ始めた時代」と分析する。

八丁池ようやく一部氷結

一部が凍った八丁池＝伊豆市湯ケ島

伊豆市湯ケ島の八丁池で19日、一部の氷結が確認された。天城山麓の冬景色が登山者らを楽しませている。

池は例年、1月中旬から下旬にかけて全面的に凍り、幻想的な光景を見せる。ただ、今年は暖冬の影響で氷結が少なく、年末年始の寒さでようやく一部が凍るようになったという。

19日に訪れた天城自然ガイドクラブの杉本文雄さんは「この時期に氷が張らないのは珍しい。寒い日が続けば再び凍るかも。冬にしか見られない景色を楽しんでほしい」と話した。

（東部総局・田中秀樹）

伊豆

1/20

「回想、2000 回登山・10」

2024/01/25

後藤隆徳

つづき

1977 年 01 月 01 日（風雪・-20 度）

天候は回復しなかった。早朝、農鳥小屋から西農鳥岳に上った。下山後、風雪の中、テントを撤収し間ノ岳に向かう。物凄い風雪。毛利の長いまつ毛に氷が付着し、重みで前が良く見えなくなってしまった「珍事」があった。

稜線小屋（現・北岳山荘）に着いた。以前、「沼津山の会」で一緒だった黒沢が「ゴトー」と声を掛けて来た。15 時、夜叉神峠隊とトランシバ―交信を試みたが、うまく行かなかった。夜叉神には、T を始め、ハイキング部がテン泊っていた。

01 月 02 日（快晴・-18 度）

天気は回復した。朝食は、昨夜の残りのオジヤだった。北岳から俯瞰の弘法小屋尾根は美しいラインだった。砂払いの頭で清水労山と会った。ボーコンの頭で、ヤッケ・ズボン・アイゼンを脱いだ。池山吊り尾根の長い下山。しかし、全員、笑顔がこぼれた。

1976/12/31　弘法小屋尾根上部（ゼンザ・ブロニカ S2 で撮影）

その後、会は 1977 年 12 月 30 日～1 月 2 日＝**釜無川～鋸岳～甲斐駒 4 名**、78 年 12 月 30 日～1 月 2 日＝**聖岳東尾根～茶臼岳 5 名、茶臼岳往復 3 名**、79 年 12 月 30 日～1 月 1 日＝

仙丈ヶ岳・地蔵尾根～甲斐駒・黒戸尾根 2 名、と南アルプスの課題を終えた。

私は、全て CL を務めた。翌年から北アルプスに転進した。その間、77 年 3 月、会員の達橋あい子と結婚をした。立会人（媒酌人）は、地蔵尾根で一緒の毛利氏だった。が、氏は 2005 年 7 月、飯豊連峰・石転び沢のクレバスに転落し亡くなった。72 歳だった。

1980/01/01　甲斐駒山頂

毛利哲也氏（当時 46 歳）

1979/01/01　聖岳東尾根（山頂から聖平へ下る）

つづく

長泉麗峰山の会・山行報告書	文・山田敬　写真・後藤、北村
山行番.	NO.2022「会創立 30 周年記念山行」
日　時	2023 年 12 月 29 日（土）朝ガス・曇時々晴
山　域	北アルプス・焼岳南峰（2456m）
コース	/28 下土狩 8:00-カモシカスポーツ松本店-中の湯温泉 14：30（泊） /29 中の湯温泉 6:00（出発）-下堀沢 8:26ー焼岳南峰 10:40-11:08～11:28（昼食）-下堀沢 12:17-中の湯温泉 14:10(下山)-そば茶屋「松花」-下土狩 20:30
標高差	上・下り　中の湯温泉・約 1600m～焼岳南峰 2456m＝約 856m
難易度	非常に困難　レ困難　やや困難　普通　やや易しい　易しい
吹雪･ラッセル、青空･樹氷、冬山合宿は豪華だった	
参加者	後藤（77）、加藤、井上、北村、山田＝5 名

今回は 30 周年記念山行・冬山合宿。前日まで唐松岳の予定だったが、雪が少なく自然保護の観点で山荘に泊まれない連絡があり、山域変更で焼岳に行くことになった。前日の 12 月 27 日まで仕事をしていたので、焼岳の地図を印刷するのが精一杯で、山の予習する時間

28 日、中の湯駐車場（北村）

中の湯夕食（北村）

29 日、朝

はあまりとれなかった。
　朝８時に長泉を出発。道中、富士山のきれいな笠雲を横目に見ながら、松本方面に向かう。初日は登山口近くの中の湯温泉に泊まる。温泉に着くと一帯は硫黄の匂いに包まれている。チェックインの時間より早く着いたので、歩いて登山口を確認しに出かける。登山口まで林道が続いているが、登山者は林道をショートカットして登っている足跡があるので、そこを辿っていく。もう道はしっかり雪がついているので、登山靴に履き替えたとはいえ、道は思った以上に急坂でアイゼンがないと危ないなと思っていたら、ちょうど焼岳から下山してきた男女ペアと遭遇。
　「こんにちは」「焼岳行ってきたの？」「はい」「登山口はこの道で合ってる？」「合ってます」でもこの先もずっと坂なのでアイゼンないと危ないですよ。**「ストック貸しましょうか？」**この人たちも今日は中の湯温泉に泊まるそうで**「じゃあ、あとで返しに行くから貸してもらえる？助かるわ」**と会話成立。
　申し出てくれた女性のホスピタリティ。そしてちゃっかりストックを借りたKAさんの抜け目なさ。お陰で転けることなく登山口を確認して温泉に戻ることができた。
　中の湯温泉は温泉宿としても有名で、焼岳に登る人だけではなく、温泉目的で泊まりに来ている人もいる。露天風呂からは夕日を受けて赤く染まる穂高連峰の**「アーベントロート（夕焼け・独）」**を見ることができた。夜の食事も素晴らしかった。

　翌朝４時に起床。**「イビキランド」**と命名され別室に隔離された私とＩさんは、隣の部屋から訴えられる程の騒音を出すことはなかったようで、朝食は平和にKAさんの特製鶏鍋でおいしくとることができた。
　とにかく雪山は装備がたいへんだ。約半年ぶりの冬山靴でアイゼン装着。手袋も二重。共同装備も分担してザックに詰め込む。夜明け前の６時にヘッドランプをつけて出発。登山口からも急な上りが200メートくらい続く。天気は雲りでガス、高温。

下部樹林帯（北村）

　荷物もアイゼンも重いので、前の人の足元を見て、無心で登る。標高1800mを越えたあたりから下堀沢までは登りは緩やかになる。
一息つけると思っていたら、雪が激しくなってきた。昨日の登山者のトレースを頼りに

歩いていくが、寒さと吹雪で地図やGPSで現在地を確認しづらい。スマホを操作するために手袋を１枚外して、指を動かす。しかし短時間でやらないと、指先がすぎに冷たく痛くなり、手袋をつけ直しても痺れてダメージが大きい。

下掘沢から南峰尾根分岐付近。上ってる２名が正規ルート（下山時の写真）

今回目指すのは焼岳南峰。YAMAPでは北峰しかルート表示がない。今回は北峰ルートの途中から左手に外れて南峰の尾根沿いに登る計画だが、吹雪で南峰の山頂どころか、周囲の様子も見えない。

先頭を進んでいたＩさん、KIさん、後方にいたＧさん、KAさんと話し合って、トレースから外れて南峰の尾根に向かってルート変更することにした。

そこからはラッセルで進む。雪の深さは膝上くらい。斜め上に登りながらトラバースをする。Ｇさんから３羽ガラスで、先頭をローテーションして、体力を消耗しないように進むように言われるが、私は１回目のラッセルですぐにバテて、その後はＩさんとKIさんに先頭を務めてもらった。

Ｉさんは吹雪の中でもストックを両側に広げながら、ずんずんラッセルで進んで登っていく。その姿は、不死鳥のようで心の中で**「フェニックスＩ」**と命名させてもらった。

２時間半くらい登ったあたりから森林限界も近くなり、風も強くなってきた。そして雲の流れが早くなり、しばらく吹雪がひどかったが、やがて雲の切れ間から青空が見えるよ

うになった。そして実際に山頂手前の地形は急峻だ。きついのは、皆同じ。声を掛け合って、励まし合う。最後はＧ会長の**「れい！」「ほー！」「れい！」「ほー！」**と会の名称のかけ声が完成し、テンションMaxで、全員無事、登頂できた。

山頂、やったぜ！！

三兄弟（北村）

南峰山頂の眺望は最高で、穂高連峰だけでなく、槍ヶ岳、甲斐駒ヶ岳、富士山、乗鞍岳、白山など360度パノラマの眺望が楽しめた。隣の焼岳北峰の下部には硫黄煙が確認できた。風がなければ、ここでゆっくり昼食をとりたいところだが、風が強く、寒くもあるので、

下山　　（北村）

霞沢岳を愛でながら下山

写真をとって、すぐに下山をはじめた。

南峰を少し降りたコルまで来て、風はやや緩やかになった、ここで昼食をとることとなった。下ってきたら、またガスも出てきたので、早めに食事は済ませたい。私の昼食のメインはアルファ米のリゾットだったが、持ってきたお湯の温度も下がっており、風が強く、手袋が外せないので準備に手間取りそうで、サブの食料として持ってきた食べやすいお稲荷さんを口に入れることにした。

封をあけて、頬張ろうとしたが、3 個入りのお稲荷さんは、きれいに揃えてパッケージ

高天原の我がパーティー

するために透明の薄いプラスチックトレーで囲まれていた。本来箸でつまんで食べるべきだが、ザックの中から箸が見つけ出せない。仕方がないので、箸は使わず、手袋にお稲荷さんの汁がつかないように袋からお稲荷さんの一つを押し出して、口でうまくつまんで、食べようと試みた。

しかし、なかなかそれがうまくいかないので、私はプラスチックのトレーごとバリバリっとお稲荷さんを口に入れて、口の中でトレーとお稲荷さんを分けて魚の骨のようにトレーだけを口から出そうとした。しかし、噛みちぎったプラスチックをすべて口から出すことはできず、お稲荷さんと一緒にプラスチックも飲み込んでしまった。

このあとプラスチックの破片が食道や胃腸を傷つけて具合が悪くなるかもと密かに心配したが、結果的には大丈夫だった。とにかく、過酷な環境下でもすぐにエネルギー補給ができる食料の必要性は、今後の学びになった。

お腹が落ち着いたら、天気も落ち着いて、下堀沢のあたりでは再び快晴に。霧氷や樹氷が空に映えて素晴らしかった。樹林帯を延々と下り、アイゼンの重さで足がクタクタの状態だ。やっと中の湯温泉に到着。そして、すぐに温泉直行。

下山直後に温泉に入れる幸せは、他の何に例えられるだろうか（**いや、ないな**）。私の 2023 年幸福感オブ・ザ・イヤー決定だ。吹雪のラッセルは地獄だったが、お湯で温まってしまえば、それもいい思い出。結果的にはとてもいい山だった。

帰路で松本の蕎麦屋さんに寄る。お昼をしっかりとれなかったので、**「フェニックスⅠ」**さんは、巨大な**「山賊焼きセット」**で消費カロリーを補充し、G さんは**「清酒・大雪渓」**の徳利セットをお店にから箱いっぱいにもらって満面の笑みだった。

2023 年の締めくくりとして、また今シーズンの冬山スタートとして華のある山行となった。

「大雪渓の徳利・お猪口」（山田）

参加者の感想・その他の記述

北村・・・初めて冬山合宿に参加させていただきました。

前日から寝食を共にしたことで、いつも以上にメンバーの心は打ち溶けていたと思います。登山当日は加藤さんの栄養たっぷりの手作りごはんを皆で頂いてのスタート。準備に不慣れで一歩出遅れた自分を待っていてくれた井上さんと山田さん。

視界悪化から青空と穂高が見えた時「来た来た～」と一緒に歓喜して厳しい上りでは、後藤会長の「レイホー、俺がついてる、頑張れ」の言葉に元気をもらい、急登を登り切って登頂した達成感を心から共感し、登山パーティの一員として行動していることを実感できたのがとても嬉しかったです。

日頃から身体を動かし登山の体力維持に努めていましたので、登山全般では、なんとか遅れを取らずについていけたかなと思いましたが、初めてのラッセルでは、井上さんのパワーに圧倒されました。冬山の技量を向上するにあたり、筋力が弱い事に気づいたので無理のない範囲で強化したいと思いました。

雪崩を警戒した行動、むやみに手袋を外さない事、悪条件でのワカンの装着など学んだ技術、これからの課題を見出せました。

みんなと登山用品店で買い物、まったり露天風呂、皆さんとの和やかな夕食はとっても楽しい時間でした。充実した２日間ありがとうございました。

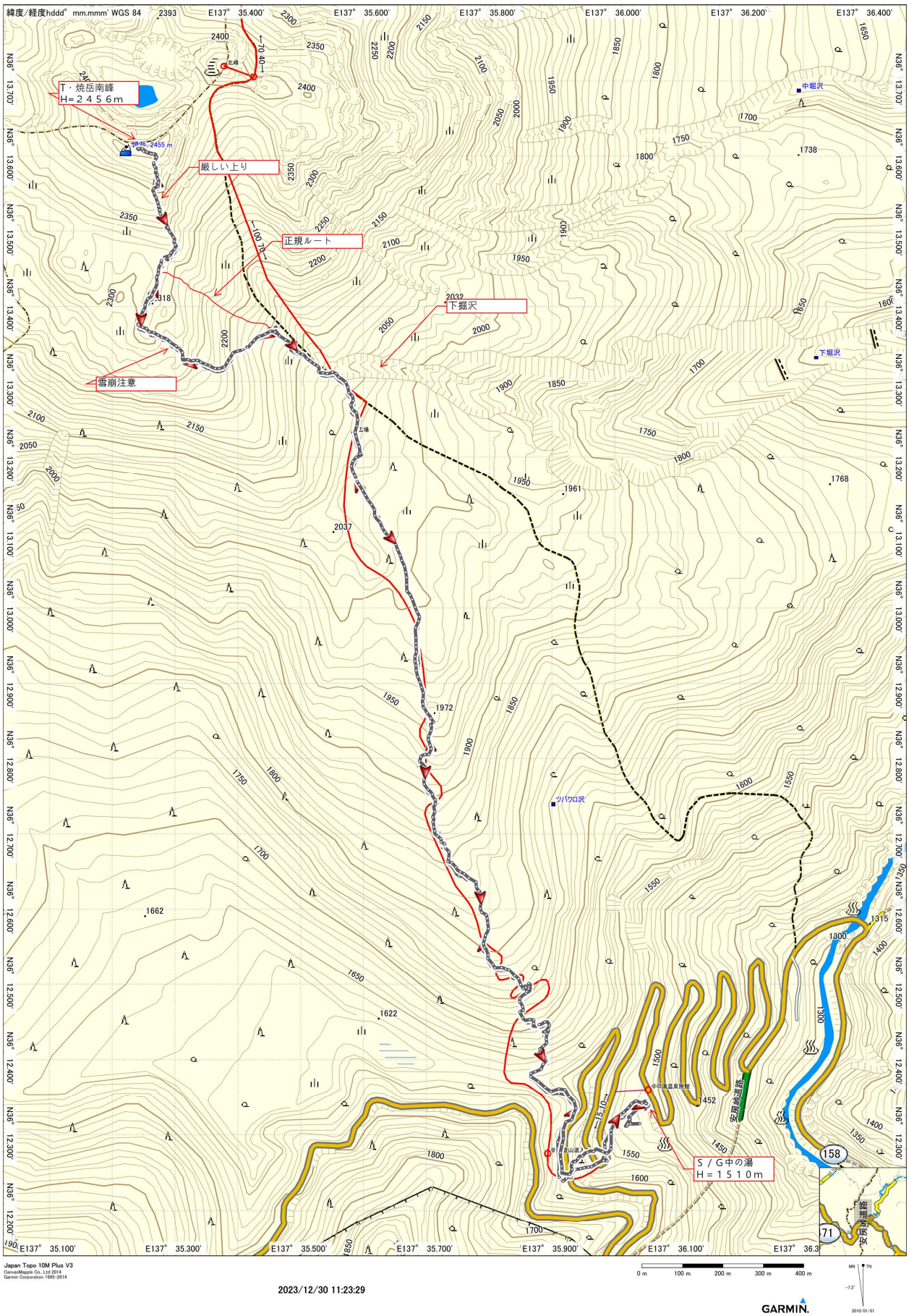
井上・・・ホワイトアウト、深雪のラッセル、雪の芸術、360 度の景色、穂高が見える露天風呂、岩魚の塩焼き、言い尽くせないフルコースでした。

加藤・・・㈰～㈫まで 38’5 度の熱でうなされ、やっと下がった㈭からの出発。「大丈夫。俺がサポートするから」後藤ＣＬの言葉にほだされ、食当番であった責任感もあり、参加はしたものの体力に不安満載であった。

当日、ガスの中をひたすら登る。後藤ＣＬは言葉通り、早くもなく遅くもなく淡々と登ってくれて、これなら大丈夫かな？と思ったが、標高をあげて突然ガスが切れ、山の全容が見えた時、「わあ～凄い！！」と思うと同時に山の頂きが目に入った。
迫り上がるような岩塊の山に圧倒された。まだ１時間ゆうにかかる。ご飯が食べられなかった３日間が身体に応える。もう駄目だ。リタイアだ。此処で待つ。
そう言った時、「レイホー！登るぞ！レイホー！歩け！」後藤ＣＬの掛け声が始まった。つられて歩き出した。
エビの尻尾、風紋、シュカブラが目の中に入り始め、その綺麗さにカメラを撮って最後尾を歩く北村さんに声を出して教える。いつの間にか疲れも忘れ、雪山の素晴らしさに惹き込まれた。
「とうとう登っちゃったよ」頂上からの 360 度の展望。ガスの中からの緞帳が上がる。山からのご褒美に「登って良かったぁ～」しみじみ思う。
「団子三兄弟」の団結力と体力は著しく成長していた。見ていると微笑ましいほどだ。帰路に先行する三兄弟を見て、これからレイホーを担う頼もしい存在だとジジ、ババは話ながらゆっくりと下っていった。

後藤・・・１．29 早朝、中の湯から、若い警察官が 2 名出発。聞けば、「釜トンネルで入山する登山者指導」だった。ご苦労様です。
２．中の湯ゲートに「伊豆ナンバー車」が 1 台。宿に長泉町の方が居たらしい。当日、焼岳登山とのことだったが、見かけなかったとのこと。（敵前逃亡？？）
３．下掘沢でラッセルを頑張った若い衆は、前日＝乗鞍岳、当日＝焼岳、翌日＝槍ヶ岳とのこと。若い衆は凄い上、エライ。
４．山頂で二番手ラッセルを頑張った、64 歳の方と会話。我々は、77 歳・74 歳といったら、ぶったまげていた。しかし、彼も翌日、何処かに上るらしい。
５．雪が少なく、高山植物の踏み荒らしは、自然保護精神に反してしまった。反省。
６．下山途中、ふくらはぎ下部がビビビと激痛。今シーズン初アイゼンの影響か？？
７．ヤマップで、北村さんの報告を見られます。

まとめ・・・合宿は、成功裏に終わったが、Ｌの私は手放しで喜べなかった。大きな反省点は、焼岳初見の 3 名を南峰尾根分岐上まで先頭で行かしてしまったことだ。
先頭はマズくなかったが、天候が悪かったから、高天原上の標高点・2037m付近で「待機の指示」をすべきだった。
結果、上り過ぎて、尾根でなく危険な斜面を上る結果になった。この斜面は、雪崩リスクでビーコンが必要だった。器械は、私・加藤は持っているが、持参しなかった。今後は、雪崩リスクの雪山登山は、ビーコン必携である。
また、ワカン装着を「現場」で学ぶのは、基本でない。下界で十分、練習を図るべき。そのためには、高いモノでないから、購入したほうが良い。
登山の原則は、「安全・安心・安定」である。その中で、一点でも問題があったら、即、登山は中止すべきである。過去、私は何回か自身・他身の事故を経験した。振り返れば、事故は必ず、その「三原則」に抵触していた。
「いい山に上る、いい登山をする」そのために、努力をしましょう。　　以上


緯度/経度hddd° mm.mmm' WGS 84
T・焼岳南峰
H=２４５６m
厳しい上り
正規ルート
下堀沢
雪崩注意
中堀沢
ツバクロ沢
安房峠道路
S／G中の湯
H＝１５１０m
Japan Topo 10M Plus V3
2023/12/30 11:23:29
GARMIN.

写真報告　01/14　県連交流ハイク　大丸山　加藤・星・山田由・植松・深沢＝5 名

13 団体・77 名参加

もぐもぐタイム

集合写真

ゲーム

今日は楽しかったネ

長泉麗峰山の会・	文・北村　写真・後藤、北村
山行番.	NO.2024
日　時	2024 年 1 月 13 日（土）晴・強風
山　域	北伊豆・発端丈山（ほったんじょうざん・４１０ｍ・北東尾根）
コース	城山駐車場 8:00-長瀬・熊野神社 9:00-四等三角点「一之洞」10:20-般登山道に合流 10:30-発端丈山 山頂 11:20 -昼食 11:30-12:00 -城山 山頂分岐 13:00-城山 山頂 13:20(井上、伊藤、山田、松永、北村 ＝5 名) -城山登山口 13:58-救急法講習会 14:03～14:40 -新年の集い 大仁「ひとやすみ」15:10～17:10-現地解散
標高差	上り＝約 360m(累計約 534m)、下り＝約 380m
難易度	非常に困難　困難　やや困難　レ普通　やや易しい　易しい
大人数でワイワイ･ハイキング＆新年の集い	
参加者	CL 後藤､救急法・加藤､SL 井上、伊藤、勝又、合谷、斎藤、松永 コース先達 山田敬、北村＝10 名

2024 年の初ハイキングは伊豆の発端丈山。登頂後は加藤さんから救急法の講習会、下山後は、大仁のレストランで新年の集いと内容も盛りだくさん。ハイキング・アルパイン合同で参加者 10 人の賑やかな山行に参加させていただいた。

私は､この日に参加された斎藤さんとは初対面､勝又さんは登山でのご一緒が初めてと、新しい仲間との交流も楽しみに当日を向かえた。

朝 8 時､城山登山口の駐車場で後藤 CL から開会の言葉をいただきハイキングをスタートした。まずは、河川敷の遊歩道歩き。新年初顔合わせなので、年末年始はどうでした？など軽い会話をしながら気持ち良い道を進む。30 分程歩くと皆身体も温まり、防寒着を脱いで体温調節、一般道に出ると蝋梅の花が咲いていて春の足音を感じた。

城山駐車場からスタート

気持ち良い河川敷の遊歩道(写真:後藤)

葛城山ロープウェイ（写真：後藤）

蝋梅の花

スタートから約一時間で長瀬・熊野神社に到着、手を合わせてバリエーションルートの山道へと入った。この日は山田さんと２人で先達係を任命され、地図とコンパス片手に先頭を歩いた。進む道は、最初の取り付きで少し慎重になったが、尾根は比較的分かりやすくスムーズだった。

山田さんは足取りが軽く、よそ見をすると距離が空くほど軽やかだった。前週は沼津アルプスで自主トレして気合も入っている、**「今後のアルパインが楽しみ～」**と心の中で思いながら一緒に歩いた。

バリエーションルートの雰囲気は、2021 年に井上さんが作成した報告書に**「冒険心があおられ・・・」**と記録されていたので想像していたが、急坂直登、トラバース、木を跨いだり、枝の間をくぐったり、距離は短いものの、まさに森の中を冒険しているような道だった。

後藤会長が良く言う**「整った登山道を歩いても面白くない」**。最初はぴんと来なかったが、地形図を読めるようになり、高度計とコンパスで目的地にたどり着く楽しさが分かってきた。常に現在地を把握して歩くので、良く聞く**「道迷い遭難」**をしない技術もしっかり身につけられる。少しずつ自身のスキルアップを感じられるのが嬉しい。

長瀬・熊野神社（写真：後藤）

この日の先達係 山田さんと北村（写真：後藤）

時々振り返り、皆がのぼる様子を写真に撮った。合谷さんと登山でご一緒するのは、初参加の宝永山以来だが、ガタイが良いので迫力を感じた。勝又さんはノーハンドでグングン上る、斎藤さんは動きが軽快、ご一緒する機会が多い伊藤さん、松永さんはいつもながら一生懸命さが伝わってくる。最後尾で皆を見守りながら余裕で歩く井上さん、フォームが綺麗な後藤 CL、加藤さんがフユイチゴを見つけて教えてくれた。視線を前に戻すと山田さんが 20m離れていた(笑) 山好きの仲間と一緒に歩ける時間はいつも楽しい。

バリエーションルートをのぼる　全 6 枚

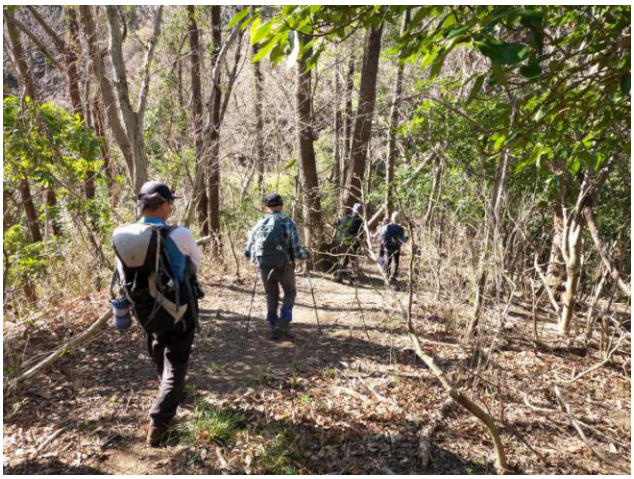
景色が開けて駿河湾が見えた、海の色が青く澄んで綺麗だった。前回の報告書でルート間違えをした場所に到達する。実際に見ると、やはり間違えそうな道だった。

良く見ると井上さんの報告書で読んだ、踏み後のあるトラバースルートがあった。すべりそうな場所だったので、後藤 CL が全員の通過を見守った。242.8m の三角点「一之洞」に到着して立ち休憩したのち、三津からの一般登山道に合流した。

駿河湾

四等三角点「一之洞」（写真：後藤）

道が一気に明瞭になった。バリルートから合流したので市街地の歩道くらいに易しく歩きやすく感じた。霧氷のような白い木が一本あって皆で眺める。遠くて木の種類は判断できなかったが綺麗だった。皆のペースも上がり、手袋交換で１分立ち止まったら姿が見えなくなり速足でやっと追いついた(汗)。山頂に到着して集合写真を撮ってもらった。
くっきりとはいかないが富士山も見えて清々しかった。



一般登山道に合流

白くて綺麗な樹木→
（右：望遠）

山頂で全員の集合写真（写真：後藤）

山頂は冷たい風が吹き寒かったため、少し下った場所で昼食となった。食後に伊藤さんが綿毛の種を見つけて、斎藤さんが何の花か調べてくれたが、種だけでは判らなかった。伊藤さんが手に持って写真を撮らせてくれた。

1 月は加藤さんと井上さんの誕生月、食後に祝福の気持ちを込めて記念写真を撮った。2 人とも良い笑顔「ハッピーバースディ♪」

綿毛の種みつけた

誕生祝の記念写真　加藤さんと井上さん

下山は道が平坦でスイスイ進んだ。途中、加藤さんが**「やぶしょうが」**を見つけて教えてくれた。赤い実がついた葉を見つけて写真を撮る。男梅岩・・・ 何の由来でついた岩名？と思ったが現物を見て、すぐ分かった。面白い岩の写真も撮った

ヤブショウガ

男梅岩（ノーベル製菓・男梅のキャラのような岩）

城山の分岐で、山頂まで行く５人と先に下山するメンバー(5 人)に分かれた。
山頂行きは、井上さん、伊藤さん、山田さん松永さん、北村の５人
「山頂アタック隊」と名付けて、井上さん、山田さんと**「無酸素登頂だ！ 難関は山頂下のヒラリーステップだ！」**とジョークで盛り上がった(笑)富士山は隠れていたが、山頂から見える伊豆の山々や街が一望できる眺めを５人で楽しんだ。

城山山頂から景色を眺める

下山後に駐車場近くの広場で加藤さんに応急処置の講習会をしていただいた。
開始前の雑談で加藤さんから時々ハイヒールで歩くと姿勢が良くなるとの話があった。加藤さんは背筋がすっと伸びて歩く姿が綺麗だなぁとずっと思っていたが、なるほどと関心した。自分も見習って若々しくいたい。
講習会は三角巾の折り方の実習、捻挫をした足を三角巾での固定する実演(加藤さん)、ザック、ストック、シュリンゲを使用して怪我人を背負う実習を交代で実施した。
三角巾は常に登山に携帯しているが、袋から出したのは初めてだった。実際のケガに人を前に迅速に動いたり、長距離を背負うのは厳しいと思うが、いざというときには役立てたい。富士山で実際に怪我人を搬送したエピソードも聞かせて頂き、とても有意義な講習となった。

三角巾の結び方実習（写真：後藤）

捻挫の足固定（写真：後藤）

ザックとストックで怪我人を背負う実習（写真：後藤）　斎藤さん、「大丈夫？」

講習会終了後は、大仁駅に移動してレストラン「ひとやすみ」で新年の集いが開催された。加藤さんが進行役を務め、初めに後藤さんから開会のコメント

　今日も良いバリエーションだった。発端丈山は 410mといっても侮れない、勉強会も有意義だった。富士支部は会員が増え活動も順調。アルパインは麗峰の若手を中心に盛り上げてほしい。ハイキングは花が好きな人が楽しめる山行を計画していきたい。何よりも無事故が一番大事・・・15:20 乾杯

参加者は今年の抱負を紙に書き、加藤さんが面白く読みあげで宴会を盛り上げてくれた。ときおり書かかれていないことを、ジョーク混じりに言って皆を笑わせてくれた。全員共通していたのは、今年も山やハイキングを頑張りたいというところ。ご一緒できる機会がたくさんありそうだ。この日は参加しなかった方も含めて交流できる機会を楽しみにしている。今年もよろしくお願いいたします。

参加者の抱負(紹介順)

斎藤: 去年は入院やコロナ感染など健康の大切さを感じた年でした。
今年も皆さんと楽しく山登りをやっていきたいです。

勝又: 今年は一つでも多くの山行に参加したい。

山田敬: 雪山を極限まで頑張って、体力つけて、夏バテしないように一年乗りきりたいと思います。

合谷: 平凡な日々が多かったので、今年は月２回山行に参加したいです。

伊藤: 1. 体調に気をつけてハイキングにオール出席したい。
2. できたら北アルプスの爺ヶ岳に登ってみたい。

北村: 1. 昨年の 6 月に長泉麗峰に入会させて頂き半年経過した。地図読み、岩稜帯通過ルーファイ、多くの事を教えて頂いた。しっかり身につけるために、定例山行で実践経験を積んでいきたい。
2. アルパインをメインに頑張りたいが、父の影響で若いころから写真が好き。ハイキングにも参加させていただき、花の写真もたくさん撮りたい。ギンリョウソウとオヤマノボクチが見たい。
3. 個人山行では、今年もカメラを持って南アルプスを縦走したい。キツイと聞く甲斐駒ヶ岳 黒戸尾根の日帰り往復にトライしたい。

井上: 今年は富士山をひょいと登れるようになりたいです。

松永: ハイキングを楽しみたい。もっと花の知識をつけていきたい。歩きに余裕ができたら山頂でコーヒーを淹れて飲んでみたい。ハイキングを通して山歩きの楽しみを見つけていきたい。

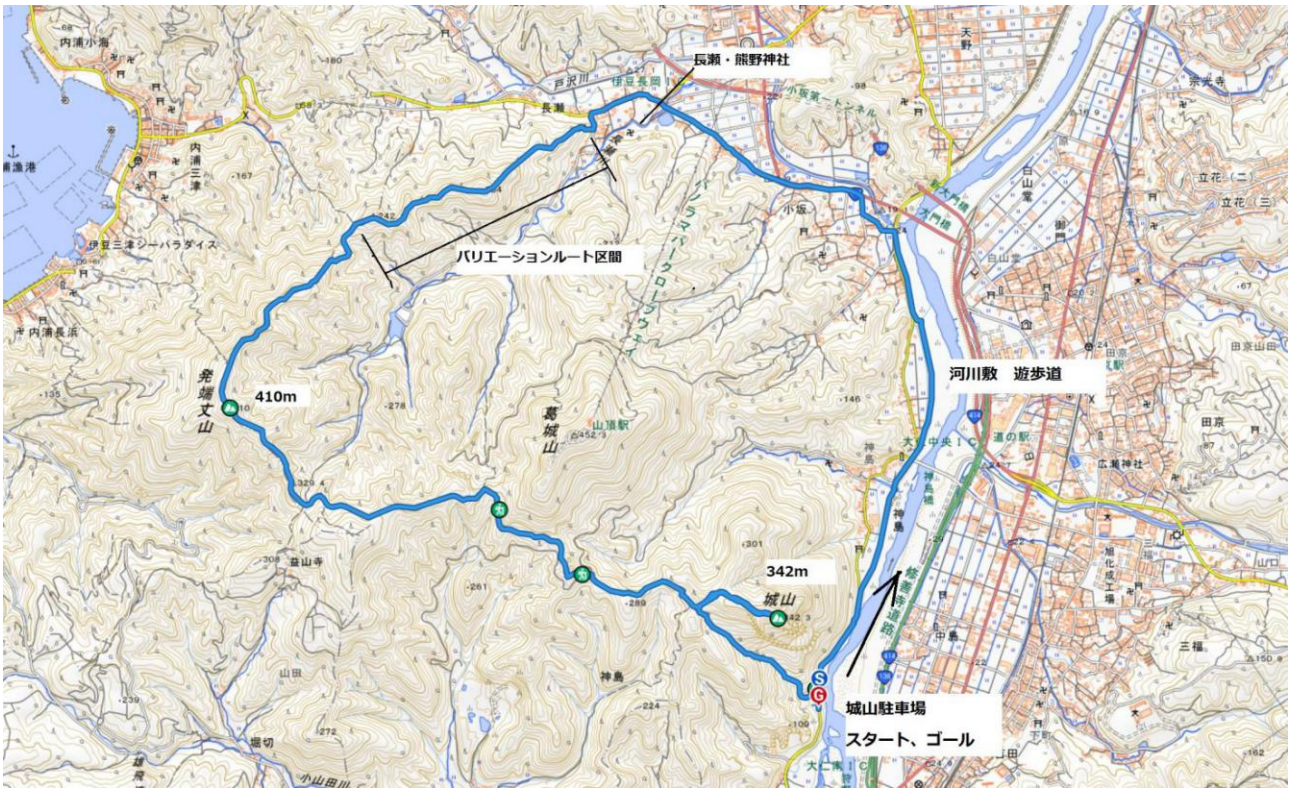
加藤: 1. 平の渡し～針の木沢～船窪小屋～三俣山荘～伊藤新道～七倉ダム
2. 富士支部では中山道 京都までの区間いいとこ取りを歩く
3. 避難小屋を利用した２泊３日の山旅を数多く目指す

後藤: 昨年は、怪我上がりだったが、登山は４８回で、ハイキングは２４回、アルパインは２４回だった。 初見の山、コース、ルートは、１６座だった。
８０歳まで現役を続ける意味でも、今年も、「新しい山・初見の山・新鮮な山」を多く上りたい。
なお、会は２月で創立３０周年を迎える。３０年間、いろいろあったが、大きな節目でもある。
ハイキング主流の中、アルパインは、引き続き、継続していきたい。
元気な若手も力を付けて来た。大いに期待したい。一緒に汗を流し、息を切らして、皆と頑張って行きたい。
また、山は、「安全・安心・安定」第一で、これをなくして、良い登山はありえない。そのためには、会として、しっかり学習活動を図りたい。
「れい」「ほう！」、「れい」「ほう！」、「れい」「ほう！」

新年の集い 料理(写真:後藤)

スナップ写真 3 枚

ハイキングルート概要



長泉麗峰山の会・山行報告書	文・山田、補助・後藤　写真・北村、後藤
山行番.	NO.2026「会創立 30 周年記念山行」
日　時	2024 年 01 月 20 日（土）曇のち雪のち大雪
山　域	八ツ・西天狗岳西尾根（2646m）
コース	1/19　下土狩 13:00-茅野・民宿「やつがね」（泊） 1/20　宿発 5:00-唐沢鉱泉 6:30-第一展望台 8:34 -第二展望台 9:00～西天狗 9:40-東天狗 10:06 -中山峠 10:53-黒百合ヒュッテ（昼食）10:59-分岐 12:02-唐沢鉱泉 12:58
標高差	唐沢鉱泉約 1865m～西天狗 2646m＝約 781m＋30m
難易度	非常に困難　困難　レやや困難　普通　やや易しい　易しい
吹雪の天狗岳山頂は無人だった	
参加者	後藤（77）、加藤、勝又（3 名往復）、北村、山田敬（2 名周回）＝5 名

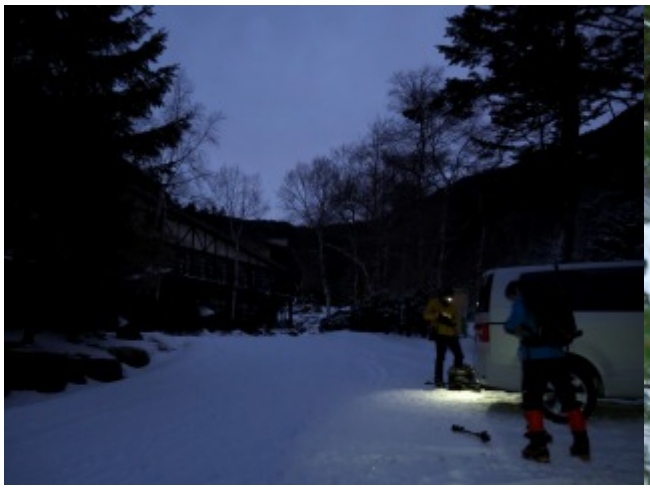
今期、冬・雪山第二弾。山は、19・20 日、悪天候予報だったが、実施希望が強く、悪天候想定で実施。19 日、後藤・加藤・勝又は、前泊先発、山田敬は、前泊後発。北村は、20 日、当日発だった。

前泊先発は、翌早朝、北村と合流場所を下見した。合流は、**「八ヶ岳エコーラインを北上し、尖石（とがりいし）考古館西」**交差点を右折し、**「尖石遺跡駐車場」**だった。

無事、下見を終了し、夕食を摂りにビーナスラインを彷徨するが、例によって、茅野市周辺の飲食店は、何故か**「１７時開店」**が多い。結局、かなり下り入店した店は、ソバしかない。それでは、明日の熱糧にならないので、熱燗・beer のみで、再び彷徨。

そのうち１７時になり、結局、ソバ以外のメニューもある店に入った。山田敬に連絡すると、既に諏訪 IC に来た。店を知らせ合流し、豪華？！な夕食を済ませた。

民宿は、安価でジジ・ババが経営。大きな風呂に入り温まり、イッパイやって就寝。ただ、後藤は布団が小さく難儀だった。



20 日、唐沢鉱泉（北村）

雪はマアマア（北村）

20 日、4 時起床、宿 5 時発。集合時間前に、尖石駐車場に着いたが北村が見えない。携

帯すると、すぐ近くに居る様な感じだが、双方、土地勘も無くて、埒が明かない。結局、時間が勿体ないので、北村には、**「唐沢鉱泉に向かって、桜坂分岐で待機して」**を伝えた。そこで合流し、後藤車で唐沢鉱泉に上るつもりだった。

しかし、桜坂分岐に北村車はなかった。何処に行ったのか。半信半疑で、上って行くと、最初の大きなカーブの上に一台の軽があった。北村車だった。いい調子で上って来たが、後藤車に連絡するため停車したら、再び上れなくなったという。

早朝暗い中、知らない土地で、同じ様な名称場所での合流の難しさを感じた。大反省。

北村車（下山時、撮影）

車を皆で押したが、低温で滑ってしまい、結局、ダメだった。しかし、時間はドンドン経過する。仕方がなく、ここに置くことになった。大きな事故でなく、幸いだった。全員で唐沢鉱泉着。

前日の天気予報では、土曜の午後から日曜日は天気が崩れる予報。できるだけ、その前に下山できるよう出発時間を１時間前倒しする。登山開始地点の唐沢鉱泉の駐車場も土曜日にも関わらず停まっている車の数が少ない。おそらく、天気予報で山行を回避した人も多いだろう。

出発準備中、ソロ女子が抜いて行った。後藤が**「一人ですか、大丈夫？」**とお声がけ。彼女は、**「ヤバければ無理しない」**で、笑って出かけた。

どうせ黒百合ヒュッテからだと思ったが、この方、実は、下山後、**「ヤマップ」**を閲覧したら、**「りーたん」**のハンドルネームで投稿していた。西天狗まで約２時間半、帰着は、１１時半だった。超速い。過去の記録もエグい記録が多かった。**「天狗岳の女天狗」**？？

雪はどっさりではないが、それなりについているので、唐沢鉱泉の出発時からアイゼン装着。6 時半頃に出発。天気は薄曇りで、風はない。高度 2150mの西尾根に出るまで 300 mくらい一気に登る。途中、早くも下山してくる男女ペアと遭遇。

聞くと午前 3 時に山行を開始して天狗岳でご来光を見て下って来たという。日の出の時刻は山頂の天気は良かったようだ。**「今日の天気予報なら、それくらい早く出発するのが正解かもね」**と後藤が話す。

樹林帯で風もないので、少し登ると体が温まりウェアが暑くなる。足を止めて少し脱ぐ。

西尾根に乗った

アベックさん

（北村）

しばらく進んで西尾根近くなると、低木が多くなり、風も出てくる。すると、今度は寒く感じるので、防寒着を着込む。そんなウェアリングをこまめにしながら、西尾根に出ると、赤岳、阿弥陀岳、横岳、硫黄岳などが間近に見える。この迫力が八ヶ岳だ。青空バックではないが、八ヶ岳のオールスターが見えて満足だ。

しかし、第一展望、第二展望と進むにつれて雲が多くなり、そのうち西天狗しか見えなくなった。山頂直下は岩場で風も強くなり、雪も舞い出した。予報通り天気は崩れていく。

後藤・加藤・勝又が上る（北村）

山田・北村が上る

晴天時の西天狗岳と西尾根　2022/03/05　人物＝井上、遠藤信子（沼津労山）実際は強風

登りが厳しくなったら、**「れい！」「ほー！」「れい！」「ほー！」**と、皆で声を合わせて気合を入れる。そして、9 時 40 分に山頂に到着。残念ながら、強風、かつガスで眺望なし。

隣の東天狗でさえ見えない。記念写真を急いで撮って、私と北村は東天狗へ。後藤・加藤・勝又は往路を戻って、唐沢鉱泉で合流する予定。

西天狗を下り、東天狗を見上げると、数人、東天狗から黒百合ヒュッテ方面に降りる人が小さく見えた。登山者を見るのは出発直後の男女ペア 1 組以来だ。それくらい今日は登山者が少ない。東天狗に到着しても、山頂に人はなし。吹雪がさらに強くなってきたので、登頂記録の写真を撮って、すぐに黒百合ヒュッテをめざす。

黒百合ヒュッテについた頃には、お腹もすいて、体も冷えているので、小屋の中に入ろうかと北村と話し合ったが、雪はどんどん降ってきているので、ゆっくりせず、簡単に昼食を済ませ、先を急ぐことにした。

黒百合ヒュッテから唐沢鉱泉までの行程では、何人もの人とすれ違う。テン泊予定の大荷物の 3 人組、10 名くらいの大パーティ、ソロの人、すれ違う人は様々だ。そんな人達と挨拶を交わしながら、ずんずん下る。すれ違った人で一番驚いたのは、自転車を担いで登っている人だ。

最初に自転車を見つけたときは、サイクリングの途中に道に迷ったのかと思ったが、声をかけて聞いてみたら、雪道やアイスバーンを下ることを楽しむために、それ専用の自転

西天狗岳山頂（北村）

東天狗岳（北村）

車を担いで登っているとのこと。

自転車のタイヤはスパイクタイヤで、重量は９Kg。担ぎやすいようにサドル下のフレームが工夫されている雪道専用バイクらしい。秋に雨乞岳で、落ち葉道を下ることを楽しむマウンテンバイクのライダーに会ったので、それの冬バージョンか。

第二展望台

雪まみれや

バイク野郎

黒百合ヒュッテ

バイクの値段も 100 万円近くするらしい。今日は自転車を担いで黒百合ヒュッテまで行って、明日、自転車に乗って唐沢鉱泉に下るか、分岐から渋の湯温泉の方に行くか考え中らしい。いろんな雪山の楽しみ方があるなと、しみじみ思いながら、下っていたら、あっという間に唐沢鉱泉についてしまった。到着は 13 時前。結果的には西尾根組とそんなに到着タイムは違わなかった。

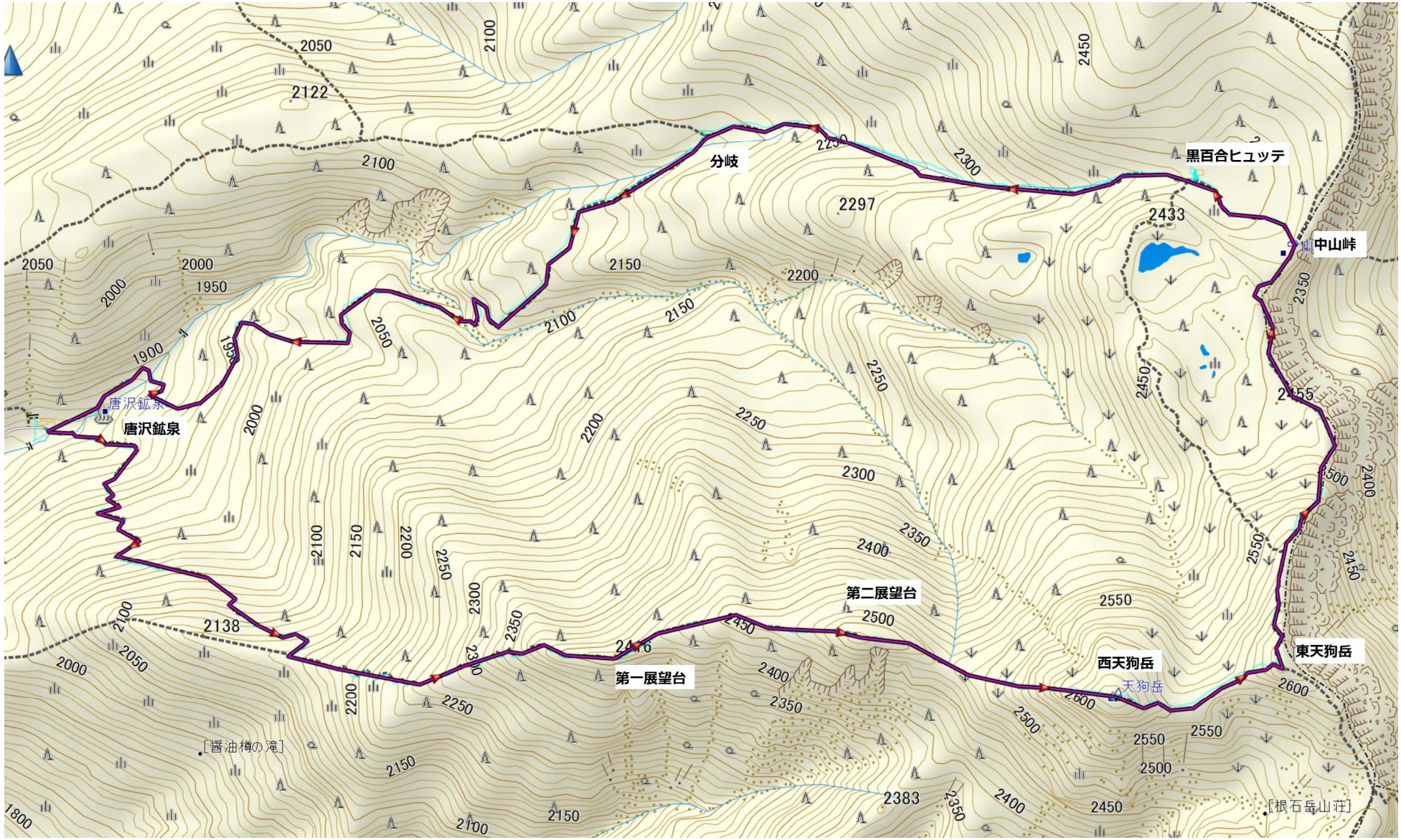
今回の積雪量　　2022/03/05　1m くらい？欄干まで積雪がある

西天狗岳（北村）

同じ時間に到着したことは良かったが、雪がどんどん降って来て、我々は、ここから車で山を下ることが心配になった。なぜなら、朝の出発時に、後藤車と当日到着の北村車と連絡がうまくとれず、４WD でない北村車が唐沢鉱泉近くまで登ってきていたからだ。

果たして、積雪の道でうまく動き出し、車体を下りの方向に変えられるか？うまく動き出せなかったらレッカー車だ。

心配したが、何とか皆で力を合わせて、北村車の脱出は成功した。今回の山行で一番ハラハラしたのは、この帰りの車の下山だった。　　（敬称略）



ＧＰＳ提供　北村

日本勤労者山岳連盟
静岡県勤労者山岳連盟・東部ブロック
長泉裾野・麗峰山の会（愛称・れいほう山の会）

会報「れいほう」
2024/01/25
第 29 期・11 巻　　2024/2 月号　　NO.270
連絡先 静岡県駿東郡長泉町下土狩 1541-12 徳山荘
090-8956-9990 055-986-6075

HP　http://susono-reihou.babyblue.jp/
Mail　takanori_reihou8888@yahoo.co.jp

またまた、たまには、海もイイね～？？！！
2024/01/24　　伊豆一周ウオーキング　須崎歩道